

広報 いまり

No. 369



豊かに実りの秋まつり

(いまり秋祭りの関連記事は10、11、14ページです)

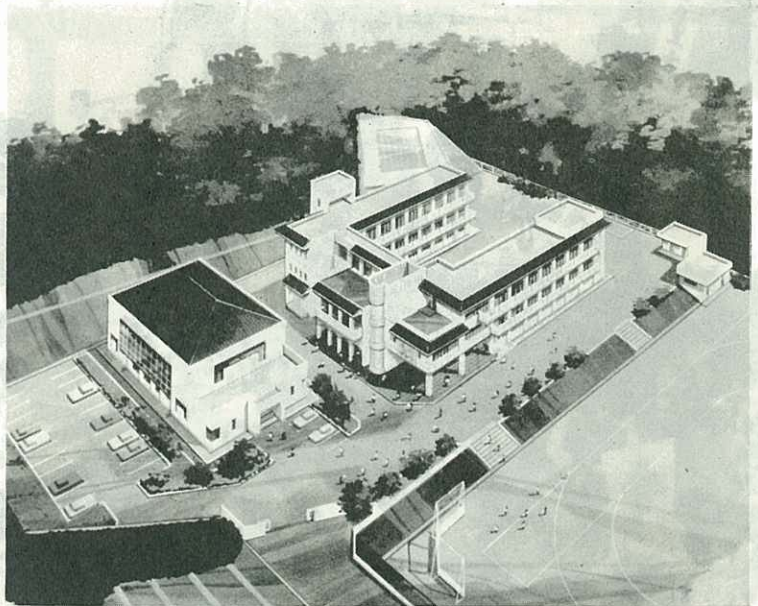
59
11月

〈人口〉男29,211人 女32,539人 計61,750人 (前月比+12人) 〈世帯〉17,329世帯 (10月1日現在)

初の統合・黒川小学校が着工

市内初の統合小学校として注目を集めている黒川小学校の新校舎の起工式が、10月11日行われ、来春4月の開校を目指して工事が始まりました。

現在の黒川にある校舎は、木造で改築期を迎え、校地が狭く、また市内小中学校規模適正化委員会の答申に基づき、黒川小学校（児童数320人）に立目分校（33人）と東黒川小学校（64人）を統合することに地元の同意が得られたことから、新たに黒川中学校に近い大黒川に建設されることになりました。



▲広々として充実した教育施設を持つ新校舎の完成図



▲起工式でくわ入れする竹内市長

新校舎は、総工費4億1,900万円です。敷地は3万4千平方メートルの敷地に、鉄筋3階建2棟、延べ3,214平方メートルの広々とした建物で、体育館は60年度に計画されています。

2校1分校の統合で、生徒数は417人の適正規模になり、普通教室12、特別教室9のほか、ワークスペースなどの多目的室

があり、恵まれた教育施設となります。

統合で最も懸案となる通学には、バス利用を検討中で、5年間は無料となる予定です。

このほかの諸問題にも、子供たちの将来や教育環境を最優先に考えていただき、地元のみなさんの一致協力、着工の運びとなったものです。

く、互に有無あい通じあうことが大切である。きけば一宮町も今年町制三十周年ということ、奇しきタイミングであるが、一宮というのは往古第一宮として国司奉祭の淺間神社ができたのに由来し、名前も縁起もすばらしい町である。だから伊万里に交響詩伊万里があるように一宮には「いちのみや賛歌」がある。一坪図書館やパソコン教室もある。お祭りでも淺間神社の御幸祭は「ソコダイソコダイ」の掛声も勇しく神興が持出されるそうで伊万里とよく似ている。山梨県は本当は山があつて海なしの方で海の幸にはとほしく、山梨といっても梨はなく、桃とブドウの町で桃の季節には町全体がピンク一色となつて日本一の桃源境と称され、想像するだに一度行ってみたいくなる町である。伊万里も鍋島藩窯公園が今年さらに整備されると大川内山の奇岩や町並みと一体となつて、この方は陶器の「陶玄境」となつて一宮の人々に呼びかけてくれるに違いない。

(竹内)

県境を越えて存続へ

松浦線自治体協議会が発足

松浦線自治体協議会（会長 佐世保市長）が、10月4日厚生年金休暇センターで開かれました。協議会は、伊万里、佐世保、松浦、平戸の4市と西松浦・北松浦郡の13町の市町長と議長で構成しています。

これは、長崎県側に松浦線対策協議会、佐賀県側に同存続期成会があり同じ松浦線の存続についての対策を講じるのに、それぞれの会が個別に行うよりも統一して行う方が、より効果があるとして結成されたものです。

この日は、国鉄利用促進運動について協議をし、17市町の職

員のノーカードを11月から設け、松浦線を利用することを申し合わせました。

また、これに先立ち9月30日には松浦線沿線の高校生のバレーボール大会が、

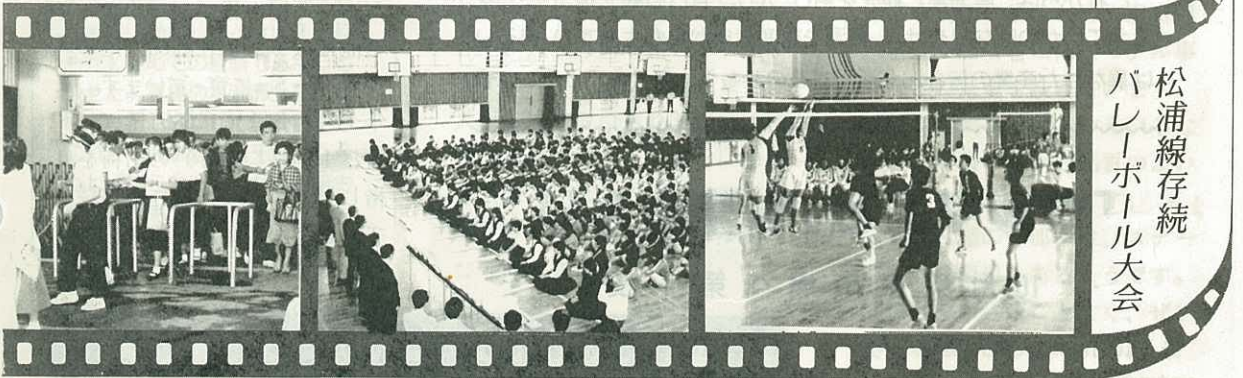
伊万里農林・伊万里学園高校を会場に行われました。大会には10校17チームが参加し、優勝は男女とも松浦で、約200名の生徒が松浦線を利用しました。

これからも種々の方策を講じ



▲休暇センターで開かれた初会合

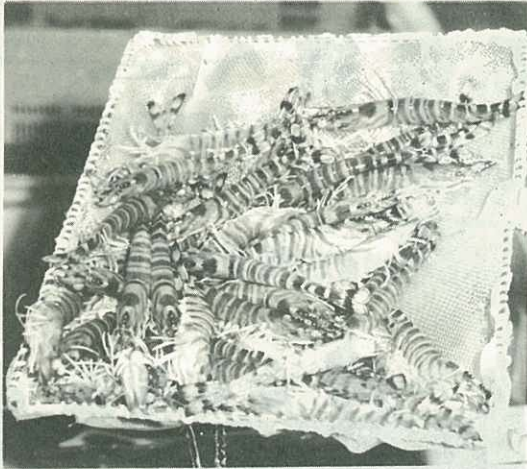
国鉄利用を呼びかけるとともに、存続に向けて中央陳情を繰り返していることにしています。



ときあたかも市制三十周年のことし十月十五日、山梨一宮農協と南波多農協の友好農協締結の調印式が、山梨一宮農協から役員多数の皆さんを南波多農協にお迎えして、田村・前田両組合長さんの間で行われた。立会人には、この橋渡しをされた新宿青果の乙黒専務さんと雨宮一宮町長さんと伊万里市長の三人が選ばれた。

いま伊万里市は新技術集積都市としてのニューイマリづくりをめざし、なかでも「おいしい食べものまち」の第一番の課題を「イマリワイン」においてそれが試作され、その課程で甲州ブドウの苗からワイン醸造に至るまで山梨一宮農協のご援助を受けているが、また一面南波多農協も日本一を誇る多角多収穫経営の特色ある農業の町であるから、これから山梨一宮農協にも参考にしてみようと思





お国自慢

食べる観

味自慢

◀ピチピチと
生きのいい
クルマエビ

市の観光資源は、伝統的な焼物に加えその核となるべき蒲葦公園、宿泊施設としての厚生年金休暇センター、西南暖地の気象条件を生かして生産される梨やぶどうなどのフルーツ、10月のトンテントン祭りなどがあげられます。

このほか、今年から養殖を始めたクルマエビ、現在研究中のワイン、あるいは肉などうまい食べものにも恵まれています。このうち、「焼物とフルーツ」は早くから名が売れ、たしかな手ごたえをつかんでいます。

これからは、農漁業と観光を結びつけた「食べる観光地づくり」を考えていかねばなりません。資源を生産者自らが生かすか、あるいは異なった産業の皆さんが活用するのももう一度考えてみましょう。



▲クルマエビの選別作業

4月末に延岡市から取り寄せた130万尾の稚エビ(約1cm)を池に放ち、現在約60万尾のエビが14~5cmに育っています。来年1月初旬までに58万尾(11トン、1尾平均19g)の出荷を目指し早朝からの出荷作業が続いていますが、観光と農業を結びつけた食べる観光地づくりに漁業も加わり、その第1歩を踏み出しました。

東京築地で活エビを扱って20年というベテランも、立派なエビが出来ていると太鼓判を押していました。

クルマエビセンターでは

東京市場へ8割地元へ2割を販売したいそうです。皆さんも供日や正月のお料理、贈り物にどうぞ。(☎⑤1112)

「クルマエビ」も仲間入り

10月東京市場へ第1便

去る10月1日、伊万里クルマエビの第1号が東京市場向け約40キロ出荷され10月20日現在約1トンを出荷しています。

市内にただ一つ残る波多津漁業協同組合(橋口政治郎組合長)は、組合員も37名と少なく10トン未満の漁船漁業とタイ・ハマチなどの養殖は規模も小さく、単一漁業では成り立たないため数種類の漁業を営んでいます。

このため、57年度から新沿岸

漁業構造改善事業で築堤方式によるクルマエビの養殖場の建設をはじめていました。国県7割の補助に市も1割の補助金を上乗せして、「とる漁業から育てる漁業」への積極的な転換をすすめていました。

組合員37名は、補助残2割の自己負担と補助対象にならない土地代や機器の購入などで約7千万円の借入を行い、背水の陣でこの事業に取り組んでいます。

光地へゴウ

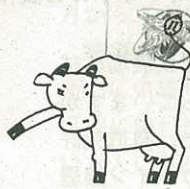
センター代表理事
松本仁さん
の話



国県市はもちろん、煤屋地区の皆さんの協力のおかげで立派な施設ができた。エビも場長はじめ職員のガンバリでしっかり育ってホッとしています。



▲出荷用のダンボール箱



うまいと評判 伊万里牛



▲杉山光正さん

センター場長
塚本久雄さん
の話



実地に勉強したとはいえ、何もかも初めての経験で5キロもやせた。夏場の水温の上昇に悩まされた。成功して一安心だがこれからは水温の低下とたたかわねばならない。まだまだ苦労が続くと思うが、若い人達と一緒にガンバリます。

市内の肉牛(肥育牛)は、約7,100頭が170戸の農家で飼われています。出荷形態は、枝肉出荷60%、生体出荷40%に分かれています。枝肉は二日市、神戸、大阪方面へ出荷されています。今年4月から現在まで、大阪市場で取引された肉は、格付の特選・極上・上などいわゆる上物と呼ばれるものが60%を超え伊万里肉の評判は年々高くなっています。

畜産農家の悩みの種は、子牛が高価であることや飼料代などの経費が値上りすることです。このため行政施策として、子牛価格を安価にするため、家畜導入事業や高令者の肉牛モデル事業などの基金を設けています。

肥育農家の方は、いろいろな困難を克服しながら品質のよい肉づくりに励んでいます。

若い人達の一部には、ステーキ祭りの構想もあるようです。構想だけに終ることなく、ぜひ実現させてほしいですね。

黒川町花房で、150頭の牛を肥育している杉山光正(32歳)さんに聞きました。

「すべて枝肉で大阪へ出している。肉質も信用が増してきたが、九州は和牛の市場が狭い。

市内でも、伊万里の肉を食べる催しものがあればいいですね。また、店頭にも並べて欲しいし、本格的なステーキ店をどなたか出店して下さらないですかねー」



▲「心を込めて育てています」と杉山さん

食べる観光地へゴー

ステーキには 巨峰ワイン

一方、南波多農協で研究中のいまりワインは、昭和45年転作水田に巨峰が植えられたときにすでに将来はワインをとの構想がありました。

その後、巨峰の生産量が年々伸びてきたことと、伊万里の牛肉の評判が高まってきたことで構想の実現に動き出しました。57年末には、市、県や農協、酒造関係者で「いまりワイン開発実行委員会」が結成され、つい先日友好農協の締結をした山梨県一宮農協からの甲州ブドウの苗木100本が昨年1月には仮り植えされています。



▲伊万里焼のワインボトルの試作品も完成

現在、佐賀県工業試験場に試験醸造をしてもらっていますが、結果は良好のようで、製造免許が下りれば「いまりワイン醸造所」で本格的なワインづくりが始まります。

また、ワインの容器やグラスも研究中ですすでに伊万里焼の試作品もでき、うまいものづくり

が着々と進んでいます。

肉とワイン、クルマエビと地酒など、いま、その資源の活性化がまたれていきます。

11月の市民会館行事

- 3日(土) 9:00~15:00 (無料)
市制30周年記念式典
- 4日(日) 11:00~17:00 (〃)
文化祭・芸能発表会
- 11日(日) 9:00~18:00 (〃)
ちびっ子文化祭
- 18日(日) 12:00~16:00 (2,000円)
日舞舞踊公演 藤間嘉寿弥
- 24日(土) 8:50~15:00 (無料)
中学校音楽祭
- 25日(日) 8:40~15:00 (〃)
小学校音楽祭
- 28・29日 9:00~16:00 (500円)
すわらじ劇団公演 J C

ワインが取りもつ

友好農協に調印

南波多農協(前田徳治組合長)と山梨一宮農協(田村正則組合長)の「友好農協、締結調印式」が、10月15日南波多農協で行われました。

式では、縁結びの新宿青果の乙黒専務に竹内市長、一宮の竹宮市長が立会人となり、一宮農協理事一行40人と南波多農協関係者40人の見守る中、両組合長が調印を終え、友好の握手を交わしました。

一宮農協は、山梨県を代表するモモとブドウの産地で、直営ワイン工場を持つ、うまいワインづくりの先進地です。去年1



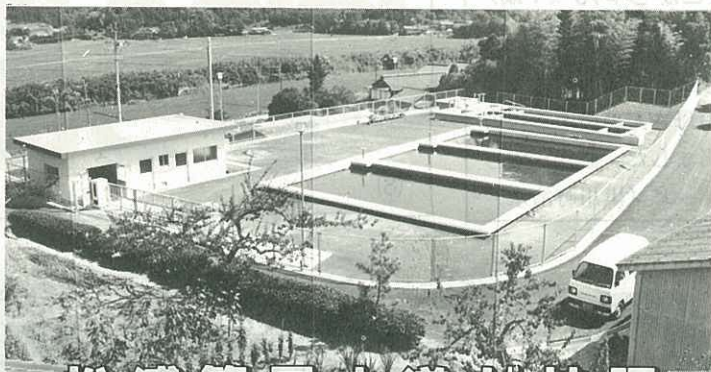
▲握手をする前田(右)田村(左)両組合長

月には醸造用甲州ブドウの苗木100本をあっせんしてもらい、今年5月には、約50人が工場を視察するなど、交流が進んでおり今回の調印となったものです。

巡回行政相談

国県や市の行政についての苦情、意見、相談などに応じます。

- ▲日時 11月8日10時~15時
- ▲場所 山代公民館
- ▲担当 行政相談委員 岩本判三氏、井手敏男氏



松浦簡易水道が拡張

松浦簡易水道拡張工事が9月末で終り、10月5日竹内市長や地元関係者が出席して落成式が行われました。

昭和42年給水能力日量300㎥でスタートしていましたが、水の需要が増えたことと、給水区

域を拡張するために昭和57年9月から工事を始めていました。

総事業費は3億7,400万円で新たに中通りと上分地区が給水区域に加わり、給水能力700㎥給水人口も2,100人から2,700人(能力3,050人)になります。



東京だより

とうきょう ←→ いま り

その5 片岡 繁 男

武蔵野女子大学副学長の大河内昭爾教授は、高名な文芸評論家である。私の作品を大事に読んでくださる。氏の『現代文学地図』の佐賀の項には、私の小説「伊万里の目明し」「火矢の谷」「こでまり」を紹介した後、とくに詩集『祈禱』に収めた「わたしはいつも此処に帰ってくる」の長詩の大半を書き列ねたうえで私の伊万里への思慕を「まことに郷里を節実に愛する詩人である」と有難い言葉をくださっている。ところで氏はたいへん食通で、氏の『東京味覚地図』上・下は私の美味散歩の虎の巻であるし『味覚の日本地図』『猫舌の食べ歩き』は日本全国の味覚の探求である。そういうわけで貸通の雑誌『あさめしひるめ

しばんめし』の編集長でもあるのだ。

数日前、電話があり、伊万里地方の窯元をきかれたので「とにかく大川内山に行ってみてください」と藩窯公園の説明をして「で、いつお出かけですか」と問うと「いや、あなたに書いてもらおうと思って」とおっしゃる。こんどその食通の雑誌で「私の九州路」特集と銘打った記念号を企画しているが、その「やきものの町・味めぐり」に書いてもらえればということだ。「ぜひ書かせてください」私は勢い込んで答えた。そのとき、私は少年時代に田山花袋の紀行文を読んでいて「伊万里のいかはうまい」と書いてある、たったそれだけの文に私の胸が熱く

豊かな心を育てよう

〈反省5〉 No.10

遊びの中から

学ばせていますか？

子どもは、冒険心、好奇心、競争心などが旺盛です。

木登り、たき火、水遊び、いろんな道具を使って物を創ったり、思いきり遊びたいのです。

しかし、すべて「危いから」の一言で禁止され、子どもには興味のない大人の作った型にはまった遊びをしかたなくしているのではないのでしょうか。

子どもたちが自由に遊ぶためには「事故は自分の責任」ということを考えないと、禁止事項ばかりで楽しい遊びができません。自分の行動に責任をもつからほんとうの自由があるのです。

自分で管理し、障害や限界には自分で、または友だちと力を合わせてのり越える努力をします。失敗やぎ折をくり返しながら、危険から身を守る方法や人生に立ち向う強い意志力と友だちとの協力や連帯感を育て身に付けていくのです。

自由に遊ぶことが大人に育っていくためには、ほんとうにたいせつなんですね。

なったことを——、そうして、その伊万里の三文字を、それぞれ伊万里弁でいえば「ツッポグット」見つめたことを——強烈に思い出したのである。「ぜひ、書かせてください」私はもう一度、重ねた。「伊万里の人たちが喜んでくれますから」私の声はうわずっていた。



★ わが家のアイドル ★
前田まどかちゃん (1歳)

克哉、久美子さんの長女。
音楽で踊り出すやんちゃな女の子です。お母さんの里から伊万里供日に生まれました。似合うでしょうこのハッピー (黒川町清水)

ほほえみ ひろは

(8)

♥あなたの手紙

明るい農業のイメージを

藤波明

夫井町大川原 樋口ハルヨさん(47歳)



▲家族総出でナシの受粉付け作業

わが家はナシと稲作の専業農家で、主人と長男の3人で働いています。私が、この家に嫁いできて、もう25年……。当初は稲作と酪農中心でしたが、昭和40年以後、山を開いてみかんを植えていました。時代とともに移り変わり、今ではナシ中心の経営です。

昔は一つ一つ手作業で体力がいる仕事が多かったのですが、今では消毒、草刈り、中耕など機械がやってくれるので、ずっと楽になりました。しかし、手

作業しかできない交配、誘引、摘果などは根気がいる作業が多く、私みたいに小さくは、脚立が必要でつらい仕事もあります。でも家族みんなで助け合いながらできますので、楽しくやっています。

現在は、わが家も後継者の嫁捜しという問題がありますが、どうしても農業の昔のイメージにとらわれ過ぎているのではないのでしょうか。自然相手ですので、思

うようにいかないこともあります。家族みんなで話し合い、助け合いながら、家族みんなで収穫の喜びを感じ、来年こそはと、明日への希望と楽しみがあります。

もう一度、農業を明るいイメージに考えなおしてはどうでしょうか。



健康の窓

伊万里医師会

科学に人間の心を

人間には言葉があり、それを書き表わすことが出来る。だから文化が生まれ、文明が進歩する。民族でも言葉はあるが文字を持たない民族は滅亡してゆく。いちばん人間に近いサル類のゴリラ・チンパンジーなどは、立って歩くが言葉を持たない。言葉を持たないゴリラに手話を教え、手話をおぼえたゴリラに

死とはどんなことかと尋ねた。すると「苦勞のない穴ぐらに入って眠る」と答えたという。苦勞のないように見えるゴリラにも苦勞はあるらしく、死ということも考えているらしい。

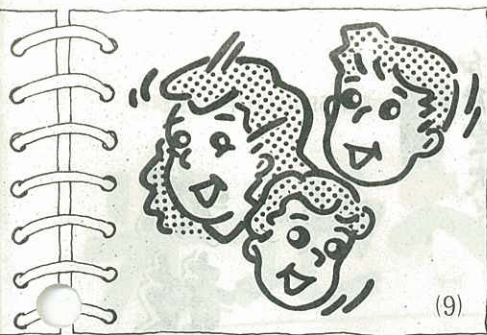
振り返って我々は死ということ、どのように考えているのだろうか。ゴリラにまさる死の概念があってもよさそうである。

今日は、死ということを考える時期でもある。そうすると、今日の脳死の問題、それにつく死後の臓器の提供の問題は次第に解決できるのではないだろうか。

結論は急ぐことはない。

時間をかけて各界、各層の人間が考えをを広げ深めてゆくことだ。このことは、冷厳な科学に温かい人間の心を入れてゆくことにもなる。

◎「わが家のアイドル」へあなたの赤ちゃんのスナップ写真をお寄せください。(秘書課広報まで)



お早よう
ほほえみさん



脇田町平山
力武 美紀子さん
(S37年生)

伊万里総踊りの名村造船所のミスの中から見つけた着物のよく似合うお嬢さん。踊りは初めてでつかれましたとのことです。
 ♥今やりたい事…北海道旅行
 ♥自分の性格は…内気な方でもっばら聞き役の大和なでしこ。
 ♥結婚は…24歳ぐらいかなあ？
 ♥理想の人…優しく一緒にいて楽しい人、俳優の館ひろしさん。



波多津供日に 女相撲復活？

▲10月17日の波多津供日で十数年ぶりで女相撲が行列に参加、みこしを船に乗せ大漁旗をなびかせた船団が湾を一周、祭は大盛況でした。

あの人この人 No. 37

川柳句集を自費出版した酒谷さん

「南無や萩坂 酔うた男が毎日通る」

波多津町浦の酒谷愛郷さん(本名和昭、41歳)は、長い闘病生活の中から、初めての川柳句集「遠野」を自費出版しました。

酒谷さんは、入学前に縁側から落ち腰を傷めたのが原因で、中学卒業後、東京、大阪で縫製の仕事をしているうちに、ヨウツイカリエスの難病が再発、奈良で9年間、入院していました。

16回の手術で、余病も併発し手術中に息が止まり、何度も死線をさまよいました。そんなとき心の支えとして、入院中の人に勧められた川柳がありました。

酒谷さんの作品は、心象を詩

ったもので、暗い闘病生活をつきぬけた明せきな眼があります。

46年に母の住むふるさとへ帰って、福岡の川柳作家泉淳夫さんのグループ「藍」に参加、同人になっています。

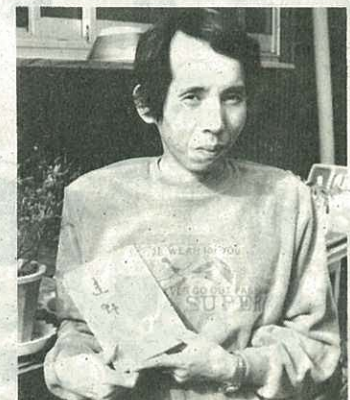
今回の処女出版には、印刷所経営の仲間の協力があり、この10年の数千句の中から295句を選び、小学3年のとき漁に出て亡くなった父や、4年前に亡くなった母への鎮魂歌として、またお世話になった方への恩返しのお気持ちから作られたものです。

表題の「遠野」は、文字通り過去から未来への酒谷さんの心

象を表しているそうです。

「鐘つかんかな

ふしぎな旅の三月を」



▲句集を手にした酒谷さん

四季の詩

この木ゆすると風が生まれる弟よ

波多津町浦 酒谷 愛郷

見なれたる山にしあれど秋晴れに

輝く見れば今日も生あり

東山代町長浜 山口 永久子

市制施行30周年記念 育てよう心のふるさと

いまり秋祭り

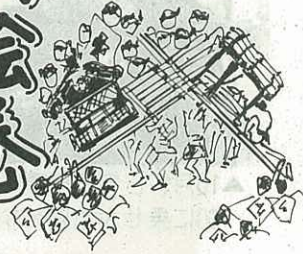


伊万里太鼓

昭和59年11月1日発行



太鼓と踊りと合戦絵巻



▲勇壮な伊万里太鼓はすっかり市民の人気の的
◀ミス水着の吉富さん(左)と釘島さんも花を添えました。

▼伊万里ばやしだ踊らにゃ損々



●さすが伝統の南波多浮立



●祭りの顔はほくらです。

《いまり秋祭りフォト特集》

「トンテントン」の太鼓の音にがっぶり四つの団車（だんじり）とみこし——伊万里っ子の血が踊るいまり秋祭りの開幕。

今年は、23、24日が平日で入出が心配されましたが、市制30周年を迎え、歌や踊りの多彩な催しが開かれ、ますますの盛況ぶりでした。

23日は、市街地の特設会場で伊万里太鼓の勇壮な響きで幕をあけ、小・中学校の鼓笛隊を先頭にバトンやポンポンガールのはなやかな音楽パレードに続き子供トンテントンや10台の創作みこしがねり歩きました。

また午後6時半から郷土出身の歌手、万里知子、若杉実、甲斐博光さんを招き「太鼓と歌と踊りの夕べ」が開かれ、新しく市民の手で作曲された「伊万里ばやし」の発表があり、見物のみなさんといっしょに踊りの輪をつくり祭り気分を盛りあげました。24日は、いまり総踊り。1,500人の大行列が踊り、いまや祭りは最高潮。フィナーレの川落しでは、高々と組んだみこしと団車が川へ落ち、祭りの終りを告げる花火が打ち上げられました。



ズームイン イマリ

◀開会に先だち
竹内市長のあいさつ



文化財保護強調週間
11月1日～7日



●大きな口でワッショイワッショイ



●「きれいかねドレスの」なんて誰ですか、熱唱する万里知子さん



●伊万里の町はもぬけのからかも

ロータリーの交換留学生でアメリカ人のケイト(16)と友人のジュリー(長崎)、パメラ(佐賀)の3人もパレードに特別参加。

秋まつりの感想は「みんな太鼓ははじめてです」「ジャパニーズドラムナイスね」「けんかは、けが人が出てこわいけど、おもしろいね、川落しが楽しみだったの」「ハッピーがめづらしいの」「おこわもおいしかったわ」とすっかりなれた日本語で話してくれました。



●大坪小学校の鼓笛隊



●左からパメラ、ケイト、ジュリーも参加

いまり歴史散歩 その32

忠敬の測量日記

郷土研究会 原口静雄

わが国の実測地図を完成させたのは、伊能忠敬いのうただたかでした。

利根川べり千葉県佐原市の旧家は現在「伊能忠敬記念館」となり、数々の測量器具や「測量日記」が保存されています。

数え年50歳で隠居して勘解由と名乗り、51歳で江戸へ出、幕府天文方の高橋至時たけはし しのぶの教えを受けました。測量術や数学を学び56歳で北海道の実測を始め、17年間も年老いた体で3万5千キロ近くも全国を歩き、74歳で亡くなりました。

「日本全国測量の大事業を成しとげることができたのは、全く高橋先生のおかげである。どうか先生の墓のそばに葬ってほしい」と言い残したという。

浅草の源空寺にある先生の側に葬られました。21も年下の先生に対する尊敬の念、師弟のうるわしい間がらをくみとることができます。

忠敬自筆の「測量日記」は国の重要文化財に指定されておりその中から伊万里市関係分の一部を、現代文でお知らせします。

伊万里地方を測量したのは、文化9年(1812年)9月、68歳の時でした。

9月9日曇天、6時徳須恵宿をたち、大川町境の駒鳴峠の林



▲伊能忠敬の肖像画

の中を通り、石坂で昼休。ここは松浦川最上流で舟行の限界点の川港であると書いています。

烏泊山うらふりすそを通り、宮の瀬で松浦川を渡り、日在城は鶴田氏の古城跡と記しています。大川野宿で領主の休泊所だった一の茶屋、二の茶屋に泊ります。

この日、大川野庄屋麻生治郎左衛門、駒鳴庄屋甚作があいさつに見えました。宿の人家は55軒、松浦川巾25間と記録し、宿泊には早すぎたので、田代川を

渡り、長野、小坂原を通り川原の番所桃川村境まで測量しました。……

以下、9月10日5時に出発し桃川宿に小休止、山方村(山形)久良木、中野原村の枝村金石原を通り、浪瀬峠を越え今岳村に入る。午後1時に伊万里町に到着。9月11日、七ッ島を測量と延々と詳細に報告が続きます。

夜は天体観測をしながら全国を歩いた忠敬は、さぞ壮健な体の持ち主のようですが、肖像画で見るとやせ型で、よく病気で寝込むことがあったようで、丈夫な方ではなかったようです。日記に病気とあるのは、痰で、いつもこれに悩まされたようです。

(以下まだまだ測量日記は続きますが、次の機会にゆずりたいと思います。詳細は、原口静男先生まで☎2252おたずねください)

我が家の健康法No.6

減塩食でスリムに

南波多町小麦原 前田百合子さん(47)



我が家は5人家族で太っちょ家系のようなです。なかでも、母は40代の終りごろから太りはじめ50歳代には80キロになりました。そのため血圧も血糖も、通常の人2~3倍もありました。

家庭では、本人はもとより家族みんなで塩分を減らすよう注意し、料理の味付けは薄味に決めました。初めはまずかった薄味も、慣れてくるとおいしく感じるようになり、みんながやせるようにと考えました。

その結果、体重も今では58キロになり、顔や手足にしわが目立ちますが母の努力と辛抱で、とてもいい状態になっています。家族が健康であれば、どんな苦勞にも耐えられます。

母はもうすぐ70歳ですが、いつまでも元気ががんばって欲しいと願っています。そういえば、母は最近アマチャヅルを煎じておいしそうに飲んでいました。

私は、苦くて二度と飲みたくありません。「良薬は口に苦し」とはこの事でしょうか。

市外からでも参加できる成人式

昭和60年の成人式を来年1月15日に開きますが、現在、該当者名簿などの準備を進めています。市外に就職している人や住民登録がない人でも、本人の希望があれば、成人式に参加できますのでお申し込みください。

▲該当者 (生年月日)

(S39年4月2日～40年4月1日)
。住民登録はしていないが、すでに当市に住んでいる人
。市外転出者で、家族が市内に在住し、当日伊万里市の成人式

に参加を希望する人

※本人か家族が届出てください。

▲申出期限 12月25日まで

※連絡先 各町公民館または、市教育委員会社会教育課まで。

(☎③2111 内線462)



年賀はがき 発売

▲発売日 11月5日(金)

▲発売所 郵便局、切手販売所

▲種類 40円(1種類)

45円(3種類)カラー

※45円ハガキは、3円寄付金を含み、「紅梅」「おしどり」「博多人形」など新春にぴったりです。

境界確認は 早目に市役所へ

最近、道路沿いの民地が埋め立てられ、道路敷との境界線がわからなくなる例が見られます。

◆水田のかさ上げや宅地造成のために道路法面(のりめん)を埋め立てる場合や◆道路沿いに樹木を植えたり、ブロックべいや石垣を設置する場合は、事前に連絡をお願いします。

◎連絡先 建設部調整室管理係 (☎③2111 内線335、336)

木づくり

無料住宅相談

木材同業組合は、設計プランや材料の選択、資金の借入れなど木造住宅に関する相談に無料で応じています。お気軽にお立ち寄りください。

▲相談日 毎月第2木曜日

▲時間 10時～16時

▲相談所 二里町八谷榎

伊万里木材工業所内(☎③3274)

じんけん

特設人権相談

人権、相続、不動産などの問題について相談に応じます。

＜黒川会場＞

▲日時 11月14日10時～15時

▲場所 黒川公民館

▲担当 古竹福市氏

＜伊万里会場＞

▲日時 11月20日10時～15時

▲場所 市役所市民相談室

▲担当 井手東太郎氏

ぜいきん

税を知る週間

11月11日～17日

伊万里税務所は、11月11日から17日までの「税を知る週間」に、県と市の協力を得て、次の行事を行います。

◆税のひろば 11月14日、15日

伊万里バスセンター入口

。税に関するパネル展

。子供の作品展(書、絵、標語)

。コンピュータ税金クイズ

※無料税金相談所も開設します

いりょう

互療会のご案内

人工肛門こうもんや人工膀胱ぼうこうの造設者で設立された互療会は、手術後の相談、器具の使用などの相談に応じています。

悩みをお持ちの方は、お気軽にご相談ください。

連絡先 〒841 鳥栖市今町624

互療会 佐賀県支部

(☎09428②4454)



色えんぴつ

善意の名を借りた募金などによる被害が出ているそうです。目的や用途のはっきりしない募金とか署名は、いま一度確かめて応じてください。

また、広報は一日も早く皆さんのご家庭に届くことを願って各地区の区長、駐在員さんを通じて配布していますが、一部の地区で遅いとの苦情がありました。各地区で連絡方法も異なっているようです。

いずれも地区の常会などで話し合ってみてくださいませんか。



こども ページ



まっりだワッショイ



〈おくんちアルバム〉

伊万里秋祭りですっかり名物になったこどもたちの創作みこし。23日には伊万里中、伊万里小、大坪小のブラスバンドや鼓笛隊、バトンガールなど約350人の音楽パレードに続いて、10台のいろんな楽しいみこしがくりだしました。

中でも人気の的は、口から白い煙をはく一粒園のゴジラみこしで、いまこどもたちに人気の「ソイヤー」のかけ声もいさましく、1歳児の園児まで参加しました。ボーイスカウトのキャンプみこしには、すっかり団員募集の案内も……。

秋祭りが終ると、秋も深まりいよいよ勉強の季節ですね。たまにはお母さんが「あっ」と驚くほど勉強すれば、おこづかいがあがるかもしれませんよ。

▲見て見てほくのバチさばき



◀煙のもとドライアイスのゴジラくん

▶お父さんの勝義さんと弟



正直なお父さん

二里小4年 牟田裕美さん

わたしのお父さんは、自分が小学生のころの話をよくしてくれます。

わたしが「勉強しよかった」と聞くと、「あんまり勉強せんで遊びよった」といいました。

お父さんが、わたしたちによく言うことは、「うそをついたり悪いことをしたりしたらいかん」

ということです。

だからわたしは、気をつけようと、思います。休みの日は、わたしたちと遊んだり、弟とつりに行ったりします。

わたしは、こんなお父さんが大すきです。お父さんいつまでも元気で仕事がんばってください。